

□美術家は無用の長物にあらず

A T 生

不思議と言はゞ凡そ人の一生程不思議なるは有まじ、即ち無意識たる出生に初まりて此の繁雜極まる一生を送らざるべからず、世の事皆然り。余が繪畫に志させしも又然るなり。我郷は全國にて景色の變化に富むと謂はるゝ、九州の其の最なる肥前島原なり。一自然兒として生れし余は敢て繪畫に渴せざりしも、四年の昔郷を辭して紅塵万丈の間に呼吸し夏季休暇に歸省す。

時將に日西山に傾かんとす、ステーションより四里の道を腕車にて行く。村はずれにかゝる右には轟々たる千々石灘、寄せ來る波の石に荒まじき音、前には暗黒の中に屹立せる眞黒の温泉岳、沖には數千の漁火點々としてあだかも空の群星と戯るゝ様、蟲はあたりの森陰になきすだきて又一層の美を添ふ。あゝ我に詩を綴るの筆ありせば我一莖の繪筆取るの才ありせば、無量八百哩を隔てゝ友と共に樂しみ得べかりしものをと。余は此處に靈火に接しぬ。繚然として悟りぬ。實に眞の畫家眞の文學者、はた音樂家は無用の長物に非ざ

りしなり。此處に我は繪筆取る趣味を解せしなりき。是此道に志しし初なり。

□自然に近いやうにと

米澤 松 風 生

私は幼少の時から繪が好きで雜誌や新聞の繪を見て樂んで居ました筆を取つて畫く事を覺えてからは一種の面白味を感じました、それで次第々々に繪畫熱の爲温められ小學時代よりは中學時代、一年よりは二年と其熱度が高まつて來たのであります。

小學時代に學んだ繪は日本畫でありましたが中學時代になつては鉛筆畫を學びました。所が日本畫は日常實見して居る所の自然と適合しない點が多いから不満足で、自然に近い様に畫いて見たいと常々思つて居ました。

時にふと『水彩畫階梯』を見たので其内容を見ますと丁寧自然を寫す法が説明してありますからそれに因つてやつて見ますと不束にも自然に似たものが出來ました、それからひたすら練習しました。

練習して居る中にも手本に因つて畫いた時と自然に因つて描いた時とは大ぶ異つて見えま

して、手本に因つて描いた時は、色合が同じに出來ますが活氣のないものが出來ます。自然に因つて描いた時は活氣があつて面白き色が出來ます。それで手本はたゞ濃淡や色の配合の參考として、主に野外寫生に志して居ります。今は同志の友と學業の餘暇熱心に研究して居ります。

□猫のいたづら

阿波 三 木 生

話しは違うが、も一ツ僕のがつかりしたのは、此頃宅の二階に鼠が荒れるので、日頃來つて居る猫が二階へ飛び上つたのを是幸と其儘放任して、寝てしまつた。翌朝起き出て、二階の書齋に入ると、大切の習畫帖、而も大半書いてしまつてある上が變に濡れて居る、よく調べて見る、ニヤン公先生、階下の襖が閉つてるので、出る所がないものだから、習畫帖から床板へかけて、小便をしたゝかしたのであつた。是には始んど閉口頓首、仕方なしに終日雨に浸して、日に就いたのを、遊びに來た里の兒にやると喜んで持つて返つた。